

1. おお世へ  
2. おれのり  
3. こらよく  
4. ののろだ  
ひあこる  
とつびこ  
日きいこ  
をねざろ  
とがなを

わいえも  
にはどて  
かたわき  
みだれう  
よならみ  
われはま  
れのやえ  
らえすに  
さいくわ  
さこ勝れ  
げうつは

まなを出  
つーで  
るりえん  
なわかな  
れれたれ  
をらは  
あの子  
つくるら  
くちみの  
あびこひ  
いるとつ  
しもばよ

ったこう  
だそを  
みなこみ  
まれこた  
えをろし  
にうみた  
あたたも  
らんわすう

「安息日を守って、これを汚さず、その手をおさえて、悪しき事をせず、このように行う人、これを堅く守る人の子はさいわいである」。主はこう言われる、「わが安息日を守り、わが喜びことを選んで、わが契約を堅く守る宦官には、わが家のうちで、わが垣のうちに、むすこにも娘にもまさる記念のしるしと名を与え、絶えることのない、とこしえの名を与える。

5

み父よなが<sup>れい</sup>霊により み言葉を教えたまえ  
なれを<sup>はな</sup>離れずみそばに おらせたまえ。

6

いかなる喜びの日ぞ！ なれはこの日にわれらを  
<sup>しゆくふく</sup>祝福に<sup>いずみ</sup>みつ泉に みちびきたもう。

7

われらは感謝に<sup>み</sup>満ちて 主が<sup>はか い</sup>墓を出でし<sup>とき</sup>時の  
<sup>でし</sup>弟子らのよろこぶ<sup>こえ</sup>声に <sup>おも</sup>思いいたす。

8

死に<sup>う か</sup>打ち勝たれし<sup>きみ</sup>君に われらに救いの道を  
<sup>と</sup>勝ち取りたまひし君に <sup>さかえ</sup>み栄あれ！

9

救われし子らの歌よ <sup>きょう</sup>今日しも<sup>ちじょう</sup>地上に<sup>ひび</sup>響け！  
主の大いなるみ名をば <sup>とわ</sup>永久に<sup>ほ</sup>誉めよ！